

地域再生計画 事後評価結果

- 1 地域再生計画の名称
新市のステップアップをささえる社会基盤づくり
- 2 地域再生計画の作成主体
栃木県、那須塩原市
- 3 地域再生計画の区域
那須塩原市の全域
- 4 計画期間
平成17年度～平成21年度
- 5 評価主体
那須塩原市
- 6 目標

【概要】

観光資源である豊かな自然を活用するため、板室観光拠点や塩原観光拠点に位置する林道を整備し観光の振興を図るほか、森林が持つレクリエーション等への多目的利用を促進し、地域の活性化を図る。また、市街地内の街区道路を整備し、市街地内の円滑な交通誘導や、渋滞の緩和を図る。

既存の幹線道路については、近年の交通量の増加により、各所に痛みが激しいため、全面的に改築し基幹的な道路としての役割を強化する。また、各拠点間を連絡する骨格的な道路や、渋滞の著しい幹線道路を整備することにより、観光拠点と中心市街地のアクセス性を向上し、効率的な道路ネットワークを構築する。

（目標1）観光客入込者数の増加

（塩原温泉観光客入込者数を15%増加）

（板室温泉観光客入込者数を15%増加）

	平成17年度	平成21年度	比較
那須塩原市全体	672万人	1,076万人	60.1%増加
うち塩原温泉	338万人	310万人	8.3%減少
うち板室温泉	73万人	68万人	6.8%減少

（目標2）観光客宿泊者数の増加

（塩原温泉観光客宿泊者数を10%増加）

（板室温泉観光客宿泊者数を10%増加）

	平成17年度	平成21年度	比較
那須塩原市全体	118万人	109万人	7.6%減少
うち塩原温泉	93万人	89万人	4.3%減少
うち板室温泉	16万人	12万人	25.0%減少

（目標3）拠点間の連続性を強化し、交通渋滞の緩和を図る

・西那須野地区から黒磯地区への連絡時間

30分（平成17年度）→25分（平成21年度）

7 地域再生基盤強化交付金を活用した事業

① 事業主体

市道：那須塩原市

林道：那須塩原市

② 施設の種類

[市道]

・市道(他)松浦町稲村線	整備延長	520m
・市道幹(1)Ⅰ－3号線	整備延長	1,150m
・市道幹(1)Ⅰ－5号線	整備延長	600m
・市道(2)旧新湯線	整備延長	3,380m
・市道(2)三本木石丸線	整備延長	1,500m
・市道(2)総合グラウンド西線	整備延長	2,200m
・市道幹(1)Ⅰ－1号線	整備延長	9,100m

[林道]

・林道木の俣巻川線	整備延長	130m
-----------	------	------

③ 総事業量及び総事業費

[市道] 18.45km、 2,649,978千円 (うち交付金 1,332,250千円)

[林道] 0.13km、 28,200千円 (うち交付金 1,410千円)

8 目標に対する達成状況

内 容		単位	従前値		計画値		実績値		事後 評価	効果発現要因 総合所見
				基準年度		基準年度		基準年度		
目標1	観光客入込者数の増加	万人	672	17	773	21	1,076	21	○	塩原温泉、板室温泉の観光客入込数は目標値を下回ったが、那須塩原市全体で増加しており、一定の効果を得た。
	うち塩原温泉		338		389		310		△	
	うち板室温泉		73		84		68		△	
目標2	観光客宿泊者数の増加	万人	118	17	130	21	109	21	△	計画どおり整備したが目標が達成に至らず。
	うち塩原温泉		93		102		89			
	うち板室温泉		16		18		12			
目標3	拠点間の連絡性を強化し、交通渋滞の緩和を図る	分	西那須野地区から黒磯地区を5分短縮(30分→25分)				30分		△	一級河川蛇尾川への橋梁整備が完了していないため目標達成に至らず。

9 総合評価と今後の方策

本計画の事業を実施した結果、また、黒磯インターチェンジの開通、高速道路のETC休日特別割引も相まって、市全体の観光客入込者数は、60%増加するなど、一定の成果を得た。

しかしながら、目標1及び目標2に掲げた塩原温泉及び板室温泉の観光客入込者数及び宿泊者数の増加については、いずれの目標値も達成することはできなかった。

その要因として、観光スタイルの変化や観光ニーズの多様化、さらには消費の低迷といった社会経済情勢の影響といったことが考えられる。

今後は魅力ある温泉地を創出するため、観光客のニーズを捉えたサービスの充実を図るなど、ソフト面の充実にも力を注いでいくとともに、引続き観光拠点に位置する市道や林道の整備を図ることにより、観光地へのアクセスの向上に努め、観光客の増加及び地域の活性化を図っていく。また、引続き街区道路の整備を図ることにより、市域における安全で円滑な交通を確保し、交通渋滞の緩和を図るとともに、観光地と中心市街地のアクセスの向上に努め、効率的で効果的な道路ネットワークの構築を図っていききたい。